

活動内容

弥生時代から近代までの田原本町の魅力をガイドしています。

「余談」にこそ、町の本質

ガイドで大切なのは「余談」を織り交ぜること。「歴史の年号や史実は、今は調べれば誰でもすぐに分かります。でも、その出来事に至るまでの『物語』や、そこに住む人々の暮らしといった背景は、その場にいるガイドにしか語れません」と塚田会長は笑います。「史実だけでは聞き手も疲れてしまいます。一人として同じガイドはない。その日の空気感や、相手の反応を見ながら、田原本の魅力をどう届けるか考えるのが楽しみなんです」弥生時代から現代まで、この地でずっと暮らしが続いていることのすごさ。そのすごさをお二人は「余談」というスパイスを効かせて、伝えています。

いぶし銀のまちを楽しむ

「田原本はキンピカ（華やか）な観光地ではないけれども、住めば住むほど味わいが出る『いぶし銀』のようなまち」そう語るお二人は、活動を始めたきっかけを明かしてくれました。「最初は地域のことをよく知らなかったので『住んでいるなら知っておかない』という、好奇心

まちの魅力を伝える「語り部」たち



田原本町観光ボランティアガイドの会

会長

塚田 四郎さん 松井 堯一さん

から」と塚田会長。松井さんは「体調不良で活動を休止していた時、仲間の楽しそうな姿を見て、たまらなく羨ましくなった」と振り返ります。

お二人とも「知れば知るほど、始める前よりもずっと、田原本が好き」と目を輝かせます。「町のために」と身構えず「楽しそうだから輪に入りたい」。そんな純粋な好奇心が、田原本のまち歩きをより豊かにしています。

これからの田原本へ

「この町は歴史が証明しているように暮らしやすく、交通の便も良い。もっと若い世代や働く世代の方に、この住み心地の良さを知り、楽しく暮らして欲しい。そして、その魅力で定住者が増えてほしいですね」と語っていただきました。

活動内容

女性部では、地域で収穫し加工した米粉を使い、園児とのピザ作りや餅つき体験などを行っています。また、サロン活動を通じて地域住民との交流も深めています。

これらの活動を通して、子どもたちや地域の方々に農業への関心を持ってもらい、地域農業を次世代へつなぐことを目指しています。

活動を始めたきっかけ

中井さんは約30年前に田原本町へUターンし、地域住民に声を掛けられたことをきっかけに参加するようになり、交流を通じて農業への思いに共感されました。

日本の農業や米を大切にしたいと考え活動に参加し、5年ほど前に発足した女性部の中心として現在の活動に取り組んでおられます。

絶品シフォンケーキ

健康志向や小麦アレルギーへの配慮から米粉を原料とした製品作りに力を入れておられます。また、米粉を使った絶品のシフォンケーキやパン、焼きドーナツ、うどんの普及にも取り組まれています。

営農組合が主催する米粉ケーキ作り教室には、磯城野高校の先生や生徒が参加し、米粉レシ

地元の作物を守り、未来へつなぐ

ピの開発も学校主体のもと進められています。

これからの田原本へ

子どもたちに田原本町の農業へ興味を持ってもらい、将来につなげたいという思いで活動されています。

農業体験を通じて自然や食べ物の大切さを伝えるとともに、地産地消を推進し地域農業を守っておられ、多地区の人々が支え合いながら農業を継承していることに誇りを持ち、これからの田原本を担う人づくりができればと述べられました。

最後に、中井さんたちは農業や地域活動に関心のある人の参加を歓迎しており、地域農業の未来を支える仲間として、ぜひ活動に参加して欲しいと語られました。



多集落営農組合 女性部

左から

西尾 明美さん

三善 美津子さん

中井 登志子さん

大井 広枝さん